

梨畑で小学３年生 有機・減農薬学ぶ

日本農業新聞掲載：令和７年１０月９日（木）

日野市立南平小学校は９月中旬、同市の平俊博さん（７８）の梨畑で食育授業を開いた。３年生８２人が参加。環境に優しい栽培などを学んだ。

平さんの家では約７４年梨栽培を続けており、食農事業は平さんの子どもが小学生の時から引き受けている。食の大切さや梨栽培の大変さを教えることで、梨栽培に理解のある地域づくりを実践する。

梨園で「なつしずく」「幸水」「豊水」「新高」などの１２種類、合計約６０本を栽培。交信かく乱剤のコンフューザーやハダニ天敵製剤のスパイカルを率先的に導入して減農薬栽培に努めている。牛ふんやバーク堆肥、有機質肥料を施用し、環境に優しい栽培をしていることなどを児童らに説明した。

梨の販売先は、約９割が宅配で発送し、他は個人直売所と同市にある平山農産物直売所で販売している。



児童らに説明する平さん（東京都日野市で）